

公益社団法人日本地震工学会 第54回理事会議事録

A.日時：2021年10月25日（金） 16時00分～18時50分

B.場所：ZOOMによるオンライン会議

C.出席者：（会長）清野純史，（副会長）山中浩明，藤田 聡，松岡昌志

（担当理事）米澤健次，西村拓也，樋口俊一，古屋 治，隈本邦彦、久保智弘，
鳥澤一晃，池田隆明，能島暢呂，松島信一，市村 強，肥田剛典，
近藤伸也

（監事） 五十田博，末富岩雄

（ESG-6 幹事長）東 貞成

オブザーバ出席：戸田薫子事務局長，小松康典事務局員

D.議題および提出資料：

議題

報告事項

- | | |
|---|----------|
| 1) 第53回理事会議事録（案）確認（西村理事） | 資料 54-01 |
| 2) 会務報告（米澤理事） | 資料 54-02 |
| 3) 会計報告（樋口理事） | 資料 54-03 |
| 4) 広報部会からの報告（隈本理事） | 資料 54-04 |
| 5) 情報コミュニケーション委員会からの報告（久保理事） | 資料 54-05 |
| 6) 会誌編集委員会からの報告（鳥澤理事） | 資料 54-06 |
| 7) 国際委員会、地震災害対応委員会からの報告（池田理事） | 資料 54-07 |
| 8) 論文集編集委員会からの報告（能島理事） | 資料 54-08 |
| 9) 事業企画委員会（企画）からの報告（肥田理事） | 資料 54-09 |
| 10) 将来構想委員会からの報告（山中副会長） | 資料 54-10 |
| 11) 17WCEE 運営委員会からの報告（清野会長） | 資料 54-11 |
| 12) ESG-6 国際シンポジウム運営委員会からの報告（東 ESG-6 幹事長） | 資料 54-12 |
| 13) 2021 年度大会に関する報告（市村理事・松島理事） | 資料 54-13 |
| 14) 第10回日本地震学会・日本地震工学会会長懇談会の報告（清野会長） | 資料 54-14 |
| 15) 防災学術連携体・特別シンポジウムにおける講演の報告（米澤理事） | 資料 54-15 |

議案

- | | |
|--|----------|
| 第1号 入退会者（西村理事） | 資料 54-16 |
| 第2号 委員会委員の委嘱（米澤理事） | 資料 54-17 |
| 第3号 共催・後援・協賛等（西村理事） | 資料 54-18 |
| 第4号 16JEES 運営委員会の設置および委員長・幹事長の就任（米澤理事） | 資料 54-19 |

懇談事項

- | | |
|----------------------------------|----------|
| 1) 来年度の事務局の体制について（米澤理事） | 資料 54-20 |
| 2) イベントライブ配信マニュアルについて（米澤理事、隈本理事） | 資料 54-21 |
| 3) 論文賞選考スケジュールについて（松岡副会長） | 資料 54-22 |

E.議事録：

議題

報告事項

1) 第 53 回理事会議事録（案）確認（西村理事）

- ・ 西村理事より資料 54-01 に基づいて第 53 回理事会議事録（案）の確認が行われ、意義なく承認された。

2) 会務報告（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 54-02 に基づいて会務報告について説明された。特に追記・修正事項はなかった。

3) 会計報告（樋口理事）

- ・ 樋口理事より資料 54-03 に基づいて会計報告が説明された。
- ・ 会費未納者への催促を 9 月に事務局にて実施した。会費収入は予算額に対して 90%程度となった。
- ・ 事業費支出は昨年度同時期より 100 万程度増えている。論文事業費支出が昨年度より多くなっているが、この要因については論文集編集委員会からの説明があった。IT 事業費支出も昨年度より増えているが、これはアーカイブ化によるものと考えられる。
- ・ 今後、特定資産取得支出には WCEE の余剰金が予定されている。固定資産取得支出には会員システムの変更支出が予定されているが、作業の進捗状況を伺いたい。
- ・ 会員システムの更新は、情報コミュニケーション委員会にて今月中にエクセルシアに調査を依頼し、支出を決めて更新を進めていくことが確認された。

4) 広報部会からの報告（隈本理事）

- ・ 隈本理事より資料 54-04 の広報部会からの報告がなされた。
- ・ 開催 2 週間前を目途に年次大会のプレスリリースを関係各所へ配布する。聴講・取材を希望するメディアには事前登録をしてもらい、録音・録画を希望するメディアへは講演者の事前の了解を得た上で許可することとする。プレスリリース原案に昨年と同様にプレスの皆様へのお願い事項を付けることにする。

5) 情報コミュニケーション委員会からの報告（久保理事）

- ・ 久保理事より資料 54-05 に基づいて情報コミュニケーション委員会からの報告がなされた。
- ・ 12 月発行予定の NEWSLETTER について、SDGs が目指す脱炭素社会をテーマとした木質構造と地震工学の特集に関する準備を進めている。
- ・ ホームページのセキュリティについて、バージョンアップをエクセルシアに調査依頼。
- ・ 地震工学ニュースのアーカイブ化を完了した。サーバーの容量アップ後にアップロードを実施する。

6) 会誌編集委員会からの報告（鳥澤理事）

- ・ 鳥澤理事より資料 54-06 に基づいて会誌編集委員会からの報告がなされた。
- ・ 10 月末発刊予定である 44 号の特集は、研究委員会の活動に関する東日本大震災以降の展開についてである。また、創立 20 周年式典と記念誌の紹介記事を掲載する。
- ・ 来年 2 月末発刊予定である 45 号の特集は、17WCEE の組織委員会や若手参加者からの生の声を届ける内容である。組織委員会、IAEE の先生方の負担軽減のため、インタビュー形式で記事を作成予定。囲み記事として開会式での天皇陛下のお言葉を掲載予定であり、現在掲載許可を

打診中である。若手参加者による参加記や写真により現地会場の状況を伝える記事を掲載予定。学会ニュースとしては、ESG6 開催報告を東幹事長、大会開催報告を市村理事に執筆を依頼。

- ・ 17WCEE での若手の表彰を東北大学の助教の先生 (Hamood 助教) が代表して授賞されたが、参加記はその方に記事を執筆依頼すればよいとの意見が挙がった。現状、その先生に依頼予定であるとの回答であった。

7) 国際委員会、地震災害対応委員会からの報告 (池田理事)

- ・ 池田理事より資料 54-07 に基づいて国際委員会、地震災害対応委員会からの報告がなされた。
- ・ ニュースレター英文記事は 17WCEE にて授賞された東北大 Hamood 先生へ記事を依頼予定である。
- ・ 留学生の会員が少ないため、JAEF でない会員についてもニュースレター英文記事の執筆依頼者を広げたい。留学生や卒業生等で執筆候補者がいれば池田理事へ連絡する。
- ・ 記事内容は基本的には研究内容についてである。研究内容でなくとも執筆したい内容があれば委員会にて相談に応じる。

8) 論文集編集委員会からの報告 (能島理事)

- ・ 能島理事より資料 54-08 に基づいて論文集編集委員会からの報告がなされた。
- ・ 事務局体制の変更について説明がなされた。論文集編集委員会の門前さんが退任を希望されている。後任として門前さんより清水さんが紹介され、論文集編集委員会幹事および事務局、JAEF 事務局、総務理事にて 10/6 に面接を実施した。採用を決定し 10 月 7 日より着任。業務移行を円滑にするため、12 月まで門前さんとの引継ぎ期間を設ける。
- ・ 論文集 11 月号に論文 10 編、12 月に英文号を発刊予定。
- ・ 伊藤忠テクノソリューションズより論文集の掲載論文のリンク掲載許可の依頼があったため、対応の協議を行った。伊藤忠テクノソリューションズが扱う 2 つのソフトに関する会社 HP に利用実績として論文集へリンクを貼りたいということであった。
- ・ J-Stage でリンクについての利用規約・ポリシーがあることから、これを遵守すること、および著者にリンクの許諾を得ることを依頼者へメールにて返答を行った。J-Stage でのポリシーとしてダイレクトリンクは禁止されているので、Doi によるリンクを利用することになる。
- ・ 論文事業の支出実績が報告された。事務局員給与が前年同期比から 208% の増加となった。現時点での予算に対する残額は 70 万程度である。
- ・ 給与の見込みとして今後 11 万円/月が続き、年度末までで 77 万円となり、残高に対して 7 万円程度の超過に留まるが、門前さんの引継ぎ業務がなされる 12 月まではやや予定よりも給与支払い額が増となることが想定される。
- ・ 報告資料内に記載したリンクの種類に関する説明が分かりやすい。ただし伊藤忠テクノソリューションズへはこの報告資料の該当部を現状では送っていない。委員会より追加で伊藤忠テクノソリューションズへ該当部分を報告したい。

9) 事業企画委員会 (企画) からの報告 (肥田理事)

- ・ 肥田理事より資料 54-09 に基づいて、事業企画委員会 (企画) からの報告がなされた。
- ・ 第 2 回の委員会が 10/4 に開催され、2021 年の活動計画について議論された。
- ・ 12 月～来年 1 月に実施予定の「室内空間の機能維持」の実験を E-ディフェンスの見学会として企画検討中。
- ・ オンライン講習会の企画として、第 2 回機械学習・深層学習プログラミング講習と地震工学で

の事例紹介を計画中。第1回をふまえて、第2回は応用的な内容の講習会とする。第1回に続き、構造計画研究所の滝氏に AI プログラミング講習会・応用編の講師を依頼し、内諾いただいた。また、地震工学分野での利用事例の紹介を予定しており、建築土木の各分野から計2名の講師を予定しており、候補者をリストアップした。

- ・ 前回の講習会のビデオ配布について、第2回の講習申し込みとは別に、第1回の講演会内容を動画オンデマンドで有料にて配信予定。講師から公開を許諾済みである。金額は第1回の講習会受講料の半額とし、動画をダウンロードできないようにストリーミング配信とする。
- ・ 第1回講習会の動画公開方法および金額について、異論はなく承認された。
- ・ 中高生向けのイベントとして、防災甲子園、スーパーサイエンスハイスクール、セミナー、コンペ、講習会等のイベントを検討中。
- ・ E-ディフェンスの実験は試験体が小さくなく、室内空間の実験なので壁があるために中をのぞける範囲が狭くなりそうである。
- ・ 震災予防講演会は準備を進めないと、来年の2月に間に合わなくなる。11月下旬には先方の事務局へ企画案を提出する必要がある。委員会より企画案を JAEE 事務局へ送付する。

10) 将来構想委員会からの報告（山中副会長）

- ・ 山中副会長より資料 54-10 に基づいて、将来構想委員会からの報告がなされた。
- ・ 中間的などりまとめが終わり、各理事との議論を始めた。まず、松岡副会長とともに研究委員会について議論を行った。
- ・ 研究委員会の成果の公表方法、災害調査、委員会の常設化の是非、活動の活性化の方策について議論した。また、研究委員会以外の項目である論文、英文誌、会員増対策などについて意見交換を実施した。
- ・ 今後も WG 委員と各理事にて議論していくことになる。11月は会誌、ニュースレターについて担当理事と議論していく。
- ・ 短期で実現していける意見があったら、各委員会にて提案し、実現させてほしいとの意見があった。
- ・ 自身が担当外でも WG へ参加したい方は山中副会長へ連絡する。

11) 17WCEE 運営委員会からの報告（清野会長）

- ・ 清野会長より資料 54-11 に基づいて、17WCEE 運営委員会からの報告がなされた。
- ・ 9/27～10/2 にてハイブリッド開催された。11/2 までエクステンドしている。28日の開会式は天皇皇后両陛下がご臨席された。
- ・ 参加人数登録は3,123人、現地参加者はのべ271名であった。
- ・ クリック数で延べ20万強、ユーザー単位では延べ1万人程度が参加していた。
- ・ 収支はまだ確定していない。ただし9月の時点であるが、収入は2億6600万円、収入と支出の差は+100万円程度であった。
- ・ 詳細な参加者数等の統計は次回の理事会で報告する予定である。また、詳しい収支の結果が出たら、後の理事会で報告する予定である。

12) ESG-6 国際シンポジウム運営委員会からの報告（東 ESG-6 幹事長）

- ・ 東 ESG-6 幹事長より資料 54-12 に基づいて、ESG-6 国際シンポジウム運営委員会からの報告がなされた。
- ・ 参加者は21か国から全体で187名であり、国内が121名である。収支の報告がなされ、810万

円の収入であり、支出総計は最終的には決定されていないが、事務局運営費が黒字分となり、全体として収支はゼロとなる予定である。

- 134 件の報告があった。オープニングセッションで清野会長、京大防災研の中北所長、川瀬委員長から挨拶があった。
- 口頭発表はすべて録画し、参加登録者には 11 月末まで公開している。一般発表はポスターとして Zoom のブレイクアウトルームを利用して実施した。ポスターセッションは事前に 1 ページのアブストラクトを提出してもらい、簡単な査読を行った。そのうえで 12 ページ以内の Extended アブストラクトを提出してもらった。1 ページアブストラクトの応募数は 168 件であったが、最終的な Extended アブストラクト採用数は 95 件であった。
- 最終日に全体議論のセッションがあり、5 点の論点について活発な議論がなされ、まとめられた。オンライン懇親会も開催された。
- 本学会研究委員会「強震動評価のための深部地盤モデル化手法の最適化に関する研究委員会」では、ブラインド予測結果の追加検討を加えた国内向けシンポジウムを開催する計画である。
- 基調講演、招待講演などを頒布する予定はないのかとの質問があった。何か方法があればそれに倣いたい、現状では、基調講演、招待講演の動画頒布やデータを残す予定はないとの返答であった。WCEE も講演動画を残す予定はないが、動画配信のニーズはあるとの意見があった。

13) 2021 年度大会に関する報告（市村理事・松島理事）

- 市村理事・松島理事より資料 54-13 に基づいて、2021 年度大会に関する報告がなされた。
- 大会の投稿期間が終了し、昨年度と同程度数の投稿が集まった。
- 基調講演、特別講演などはプレナリーセッション、一般口頭発表はパラレルセッションとする。現状、パラレルセッションは 3 セッションの予定である。
- 招待講演は京都大学防災研の飯尾教授、基調講演は海洋研究開発機構の堀部門長、招待講演としてケンブリッジ大学の Emily So 教授に依頼し、内諾を得ている。
- 建築会館 301 号会議室の予約を完了した。オンラインシステムを運営管理する防災ログから 3 名、および大会実行委員会委員も会議室に詰め、運営にあたる。コロナ感染対策に留意する。
- 技術フェアのロゴ掲載と動画掲載のために、昨年と同様に大会ウェブページを検討中である。
- 参加費、技術フェア出展料は昨年と同様である。技術フェアも法人会員から申し出があり、収入は昨年と同じ程度となる見込みである。
- 支出について、収支に余裕があれば会場での学生アルバイトを雇いたい。いまのところ、現状の収支は見込みであるがプラスマイナスゼロである。
- 次回の委員長は新しい理事が就任する予定である。
- 大会の前にはプレスリリースを出しており、今年度も出すことにする。昨年と同様に講演内容、プログラムとともに隈本理事からのプレスへの注意点についての内容を併記する形で作成する。
- 昨年トルコの先生には講演の謝金を払ったと思うが、今回はどうするのかとの質問があった。昨年と同様に会員以外の方には謝金を出すようにする。
- 講演者およびプレスリリース案について了承された。
- 論文集のフォントをマイナーチェンジした。来年度は大会の方でもフォントを論文集にあわせて論文フォーマットを変更するように申し送りをお願いしたい。
- 開催場所を東京から別の場所へ変更してもいいと思うがどうかとの意見があった。今から来年の場所を予約するのが難しいかもしれないが、委員会で議論することとする。
- アフターコロナも見据えて、ハイブリッド開催の検討もお願いしたいとの意見があがった。

14) 第 10 回日本地震学会・日本地震工学会会長懇談会の報告（清野会長）

- ・ 清野会長より資料 54-14 に基づいて、第 10 回日本地震学会・日本地震工学会会長懇談会の報告がなされた。
- ・ 10/4 にオンラインにて開催された。まず、双方の学会からコロナ禍での学会活動、社員総会の概要が報告された。
- ・ 共同記念事業については、久田副会長、山中副会長、米澤理事にて事前に打ち合わせを実施し、2023 年の第 16 回日本地震工学シンポジウム(16JEES)の事業として実施することに合意した。懇談会での議論の結果、専門家向けの企画は 16JEES で企画し、一般向け企画は地震学会大会の中で地震学会と地震工学会が共同で実施するという案を基に進めることになった。担当が決まるまでは、久田副会長、山中副会長、米澤理事を窓口として進めていく。
- ・ 日本地震工学シンポジウムの余剰金として積立金が 888 万円ある。関連 6 学会において積立金を今後有効活用することが議論された。
- ・ 日本地震工学会より ESG6、17WCEE および将来像検討 WG の取り組みについて報告がなされた。

15) 防災学術連携体・特別シンポジウムにおける講演の報告（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 54-15 に基づいて、防災学術連携体・特別シンポジウムにおける講演の報告がなされた。
- ・ 防災学術連携体より、第 6 回防災推進国民大会（ぼうさいこくたい 2021）への講演募集案内があった。研究統括委員会委員長の松岡副会長と相談の上、研究委員会「首都圏における地震・水害等による複合災害への対応に関する委員会」の成果について報告することとした。委員長であった久田先生へ講演を依頼し、快諾をいただいた。
- ・ 11/6（土）18:05 より防災学術連携体が開催する特別シンポジウム「防災教育と災害伝承への多様な視点」にて JAEE から久田先生が講演を行う。

議 案

第 1 号 入退会者（西村理事）

- ・ 西村理事より資料 54-16 に基づいて入退会者の報告がなされた。入会者：正会員 13 名および学生会員 9 名および退会者：正会員 1 名および学生会員 1 名に関して、また法人会員 1 社の入会について異議なく承認された。

第 2 号 委員会委員の委嘱（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 54-17 に基づいて委員会委員の委嘱の説明がなされた。各委員の委嘱に関して、異議なく承認された。
- ・ IAEE 副会長の中埜先生の任期が 2021 年 10 月までへと変更された。

第 3 号 共催・後援・協賛等（西村理事）

- ・ 西村理事より資料 54-18 に基づいて共催 1 件、後援 3 件、協賛 1 件が報告され、異議なく承認された。

第 4 号 16JEES 運営委員会の設置および委員長・幹事長の就任（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 54-19 に基づき第 16 回日本地震工学会シンポジウム（16JEES）運営委員会の設置および委員長・幹事長の就任について説明がなされた。
- ・ 本来であれば 2022 年に開催される予定であったが、17WCEE の延期により 2023 年に延期となった。幹事学会が本学会であり、今まで関連学会が持ち回りで運営委員会の委員長および幹

理事長を推薦いただいております、今回は日本建築学会の番である。運営委員会の委員長および幹事長についての人選に関する依頼状を日本建築学会へ送付し、委員長に工学院大学久田教授、幹事長に慶應義塾大学小檜山教授が推薦された。

- ・ 運営委員会の設置ならびに委員長および幹事長の就任について異議なく承認された。
- ・ 今後のスケジュールは、来年4月に関連学会へ共催、委員の推薦を依頼し、6月に第1回運営委員会を開催する予定である。

懇談事項

1) 来年度の事務局の体制について（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 54-20 に基づき、来年度の事務局の体制について説明がなされた。
- ・ 来年度からも小松事務局員は勤務を継続するが、勤務日数が週2日程度となり、新たに週2～3日程度の業務を行うパートタイマーを募集することとした。10月初旬から内藤一水社含め計2社で新規の事務局員の採用に関する広告を出している。面接を11月に行い、業務開始は12月からを予定している。
- ・ 年齢層的には30～40才代を期待しているが、15名の応募者はほぼ60才以上である。希望している年齢層からの応募者を増やすために、もう1社求人広告を追加する予定である。
- ・ さらに求人に応募を行うことが了承された。

2) イベントライブ配信マニュアルについて（米澤理事、隈本理事）

- ・ 米澤理事および隈本理事より資料 54-21 に基づき、イベントライブ配信マニュアルについて説明がなされた。
- ・ コロナ禍でオンライン開催が主流であるが、今後はハイブリッド開催も考えられる。費用削減に向け開催の内製化を行うため、隈本理事がイベントライブ配信のためのマニュアルを作成した。
- ・ 今後、事業企画委員会にてマニュアルを管理し、マニュアルを元に活動をしていく。また IC 委員会にて IT 関連についてサポートすることとする。隈本理事だけでなく、肥田理事、久保理事にもご協力いただく。
- ・ 必要機材は8～10万円となる。必要機材を隈本理事と相談し、肥田理事、久保理事に承諾を得て事務局にて機材を購入する。
- ・ 12月の理事会で機器を用いてライブ配信によるハイブリッド開催を実施することとする。

3) 論文賞選考スケジュールについて（松岡副会長）

- ・ 松岡副会長より資料 54-22 に基づき、論文賞選考スケジュールについて説明がなされた。
- ・ 概ね通年どおりのスケジュールにて選考を進めていく旨の説明があった。能島委員長、末富委員長へ通常号、特集号の論文集について推薦論文の提示を依頼済みである。末富委員長より推薦リストが提出された。11月末が応募締め切り、2022年2月に論文賞選考委員会の開催および3次審査実施、その後正副会長会議で推薦論文と審査過程が報告され、3/11に理事会での審査結果報告、審議を経て授賞対象論文が決定される。
- ・ 説明されたスケジュールにて選考を進めていくこととする。

4) その他

- ・ 米澤理事より11月15日に開催される正副会長会議について説明があった。会長、副会長、総務理事および会計担当理事へ会議の出席を依頼した。次年度予算、功績賞・功労賞の候補者選

定について議論する予定である。

- 松岡副会長より、研究委員会委員長に研究統括委員会委員長である松岡副会長が就くことは可能なのかとの質問があった。松岡副会長が研究委員会委員長に就くのは問題がないとの回答があった。被害写真のアーカイブ、デジタル情報を収集し、AI を使った被害判定やその他の用途に使うための研究に関する研究委員会の立ち上げを検討中である。火山の情報については早めに収集した方がよいとの意見があった。

次回予定：第 55 回理事会 12 月 13 日（月）16 時～19 時

以上 この議事録が正確であることを証します。

令和 年 月 日

議長 清野 純史

監事 五十田 博

監事 末富 岩雄